

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成29年度第3回情報教育研究委員会合同会議議事記録
情報教育研究委員会
情報リテラシー・情報倫理分科会
分野別情報教育分科会

I. 日 時：平成29年12月7日（木） 17：30～19：30

II. 場 所：私立大学情報教育協会会議室

III. 参加者：斎藤委員長、笈アトバ伊、大原アトバ伊、玉田主査、高岡委員、金子委員（Skype）、
中西委員（Skype）、阿部委員、角田委員、武藤アトバ伊、渡辺アトバ伊（Skype）
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

9月6日 ICT 戦略大会分科会の振り返りを行い、教材方略と教材開発について検討した。

1. ICT 戦略大会の振り返りについて

- 参加者アンケートから、「リテラシー教育の課題」は、学生レベルのバラつき、操作教育に終始の回答が多かった。提案教育モデルへの賛否は、9割が賛同だった。提案教材を活用して授業改善の希望は、8割弱が活用に前向きだった。リテラシー教育へその他の意見では、Office 以外での教材、Google の利用、文学分野、到達度チェックシートなどの要望があった。専門分野のモデルは、9割が賛同だった。自大学の専門分野で問題解決型に授業を改善できるかは、7割が改善可能の回答だった。授業提案への意見では、学生の負荷、考える能力育成のため授業での訓練は効果的、該当科目の履修有無で差がでる、事例の知識・技能が広い範囲になり授業運営が困難、教材やループリックがあれば検討しやすいなどの意見があった。
- 授業運営に不安な意見から、解説資料など使いやすさを考慮して考える必要がある。

2. 授業方略と教材開発について

- 各大学が全て15コマの対応は困難であり、数コマ取り入れても授業内の学修時間では修得が難しいことが予想され、例えば、リテラシーガイドラインの到達目標ABCそれぞれ1本ずつの3コマを想定し、事前学修の反転授業型で提案できないか。
- テーマについては、4年間の学修計画を考えさせることなどの課題ではどうか、モデル化については、高校との差別化を図る必要があるのではないか。
- 事前学修用ビデオの品質についての質問があったが、反転授業を推進している大学では、作成に時間をかけない考え方から品質は問わないことにしてはどうか。イメージはパワーポイント画面に音声での動画を予定する。
- 動画以外に授業で資料する教員が解説する資料、問いかけ・確認内容、ディスカッション用ワークシート、演習課題、事後の振り返り課題などが考えられる。
- 15コマ授業の教材としては、後期授業での実践の報告や来年度に向けて、学外・地域連携授業の反応、教育・保育分野向け教材、ゲーム型体験教材などの開発・発信を予定する。

3. 来年度に向けた検討課題について

- 3コマ教材の有効性について委員校で検証できないか。
- ループリック、グループ・個人評価方法の検討が必要ではないか。
- ディプロマ・カリキュラムポリシーに組み込むための理論武装が必要ではないか。
- 情報教育の教員と専門分野の教員との連携・協力を呼びかける戦略が必要ではないか。
- 推進方策としては、大会での紹介、交流組織、情報発信の必要性が考えられる。

V. 今後のスケジュール

- 次回は2月22日に開催し、反転授業用の教材を確認することにした。